特256
276

0032917-000

特２５６－２７６

鹿児島市勢要覧

鹿児島市

昭和１１年版

昭和１１

AFB

鹿兒島市勢要覽

昭和十一年版

特256
276

特 256
276

櫻島
鎔岩地帶
祇園ノ洲
鹿兒島驛
鹿兒島驛前
中央卸賣市場
東本願寺
天保山
鹿兒島放送局
市立商業學校
商船學校
海水浴場
鴨池公園
動物園
沖小島
神瀬
荒田八幡
測候所
高等農林學校
天文館通
第二中學校
武岡公園
鹿兒島本線

霧島山
溶岩地帯
磯天神
海水浴場
琉球人松
鹿兒島驛
鹿兒島放送局
天保山
甲突川

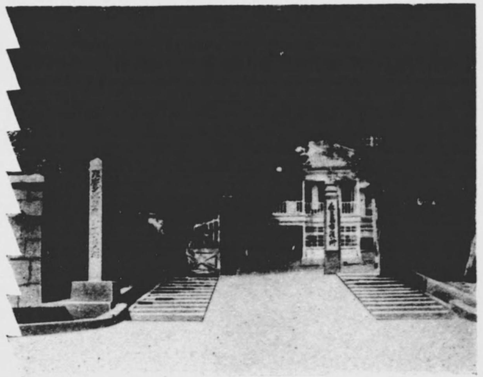
鹿兒島縣廳

鹿兒島驛の西南約五町山下町にあり廳舍は大正十四年九月の建築に係り近世式三階建鐵筋コンクリート造りにして總工費百拾參萬參千余圓を要し結構宏大なり

城山より市街地を望む

鹿兒島縣廳

鹿兒島驛の西南約五町山下町にあり廳舍は大正十四年九月の建築に係り近世式三階建鐵筋コンクリート造りにして總工費百拾參萬參千余圓を要し結構宏大なり

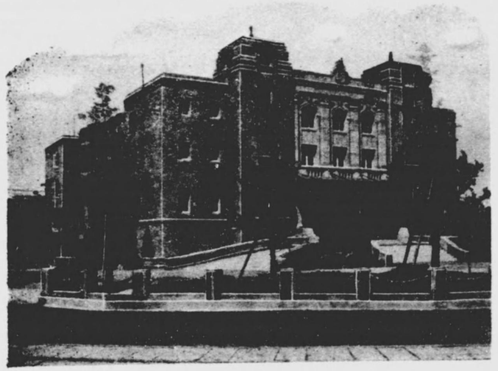


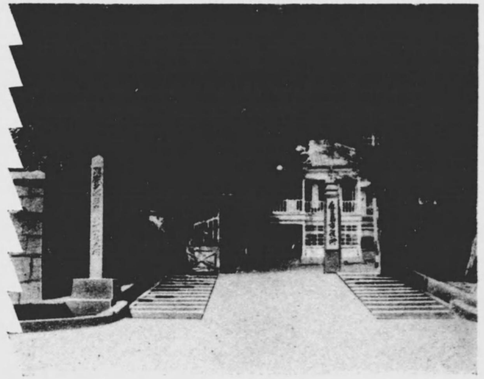
鹿兒島市役所

鹿兒島驛の西方約十四町山下町にあり俗鹿兒島城二の丸趾なり

昭和二年十月の建築に係り市役所前に位置し近世式ビザンチュウム三層建にして内部の設備完全座席千五百の大集會場を有す

市公會堂



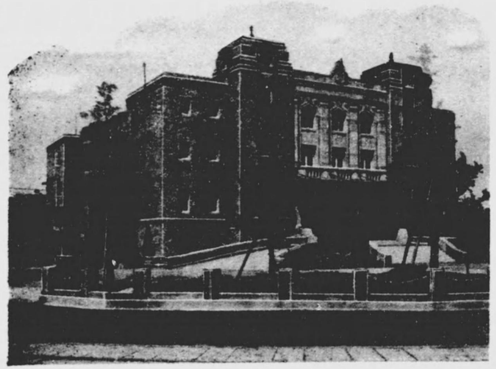


鹿兒島市役所

鹿兒島驛の西方約十四町山下町にあり舊鹿兒島城二の丸跡なり

昭和二年十月の建築に係り市役所前に位置し近世式ビザンチュウム三層建にして内部の設備完全座席千五百の大集會場を有す

市公會堂

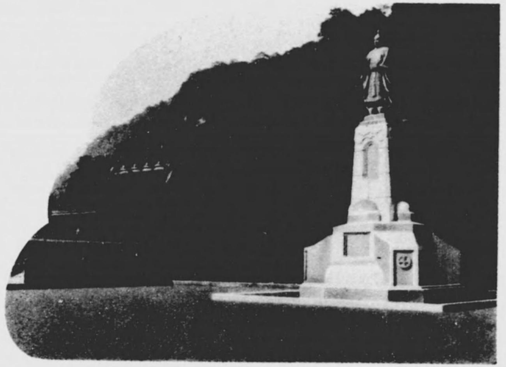


照國神社

城山の麓にあり島津齊彬公を祀る別格官幣社にして境内廣く公園の觀を呈す境内に齊彬久光忠義三公の銅像あり

社殿の東側にあり後に城山の綠翠を負ひ前方境内廣く市街を距てゝ大隅の連峰及櫻島を望む

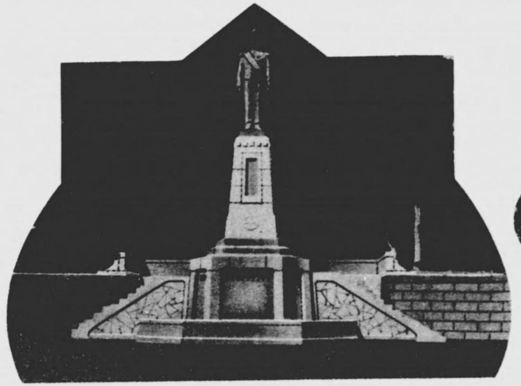
齊彬公銅像



久光公銅像

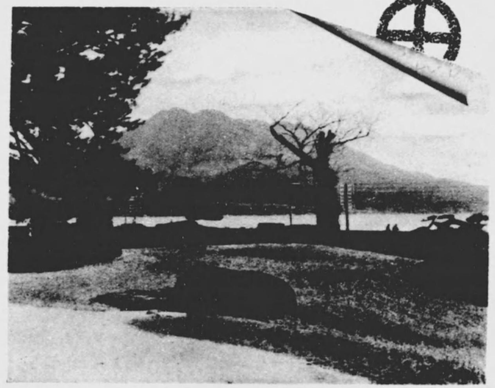
境内探勝園の一隅にありて後方城山に接し前に泉水を圍らし附近梅つゝじ等多く四時遊覽の客絶ゆる事なし

忠義公銅像



境内廣場の東方にありて前方三百有余年を經たる老松及大鳥居に相對す

磯島津邸



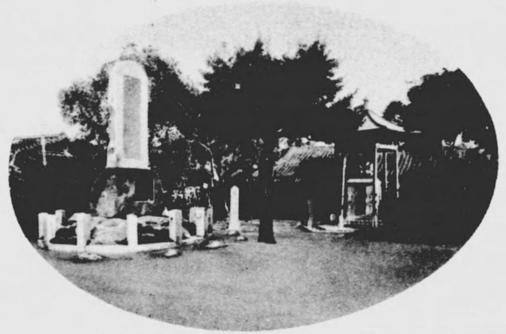
鹿兒島驛より東北に國道を進むこと十五町にして達す後に磯山の翠巒を負ひ前面は近く櫻島の秀麗を仰ぎ薩隅の連峯を一眸の裡に收め風光の雄大なる眞に天下の絶勝なり

尚古集成館

館は島津邸内にあり嘉永元年島津齊彬公の創設したる集成館の跡にして往時は兵器機械類の製造所なりしが現今は舊薩藩に關係ある史的資料を陳列して一般の縱覽に供す薩摩文化の跡を尋ねんとするもの本館の觀察を忘る可からず

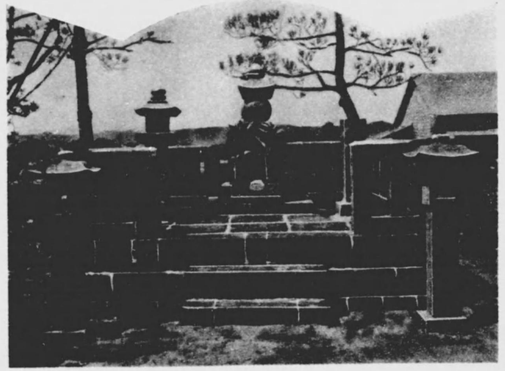
乃木夫人誕生地

甲突川畔に近く新屋敷町にあり園内に夫人の銅像を建つ同境内に夫人の令兄海軍機關中將湯地定監の記念碑あり



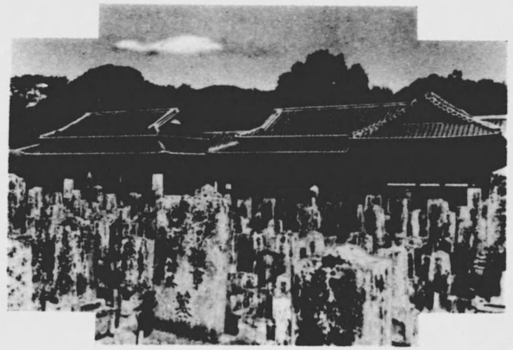
月照上人墓

南林寺町内南洲寺境内にあり墓前に詣づるもの誰か南洲先生と共に海に投じたる月照上人を偲はざらん



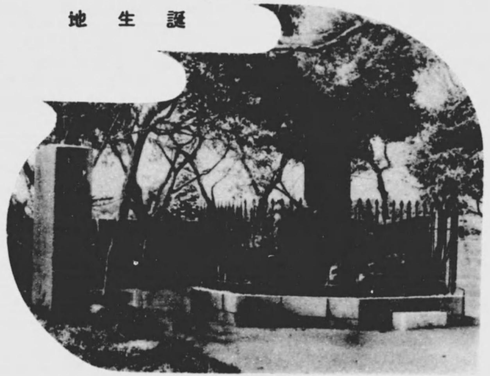
南洲翁記念館

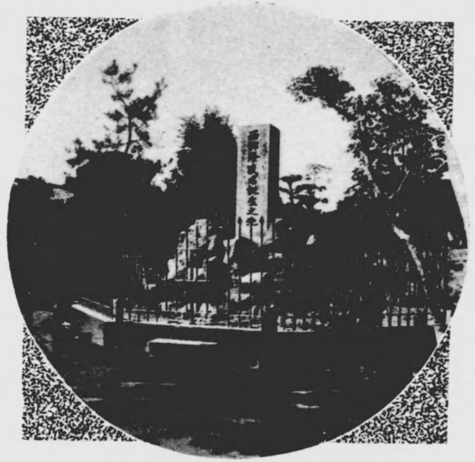
南洲神社の境内にあり南洲翁を始め薩摩藩出身諸名士の遺物文書筆蹟等參考資料多數を蒐集陳列し一般の觀覽に供す



東郷先生誕生地

甲突川畔加治屋町にあり南洲翁誕生地を去ること僅かに一町周圍に石垣を廻らし中に當地産河頭石の堅緻なる碑を建つ碑文は重野安繹の撰なり



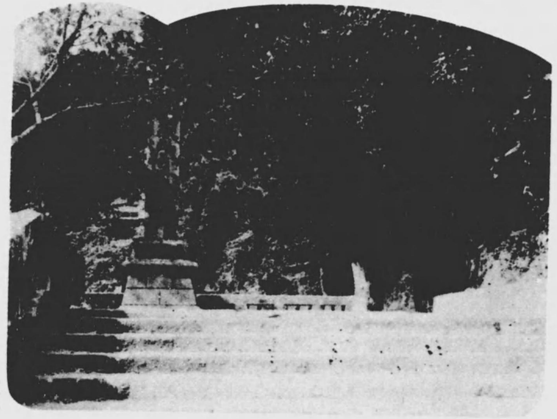


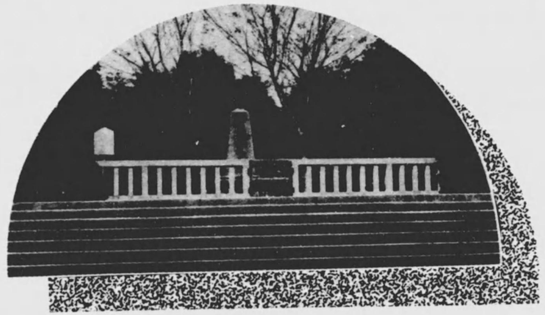
南洲先生誕生地

甲突川畔加治屋町にあり同じく碑を建て記念とす附近一帶は西郷從道、大山巖、村田新八東郷元帥、黒木大將等名士輩出の地なり

城山の北麓岩崎谷にあり翁は明治十年九月一日薩軍に擁せられ故郷に歸り部下將士と孤壘を守る翁は常に此の洞窟に起臥し胸中戰塵をとゞめざりし觀ありしと云ふ

南洲翁洞窟



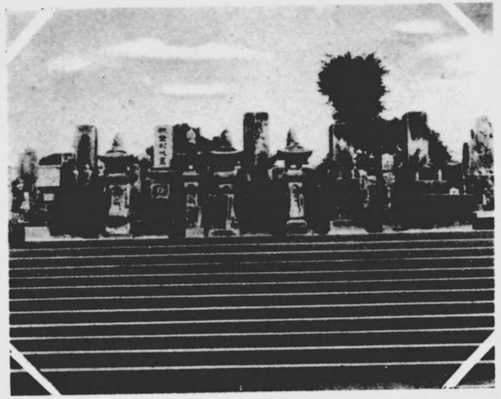


南洲翁終焉の地

明治十年九月二十四日南洲翁絕命の所岩崎谷の入口にあり碑を建て、記念す

南洲神社境内にありて南洲翁の大墓碑を中央に桐野、村田、篠原、大山、桂、邊見等十年役に戰死したる將卒の墓碑あり

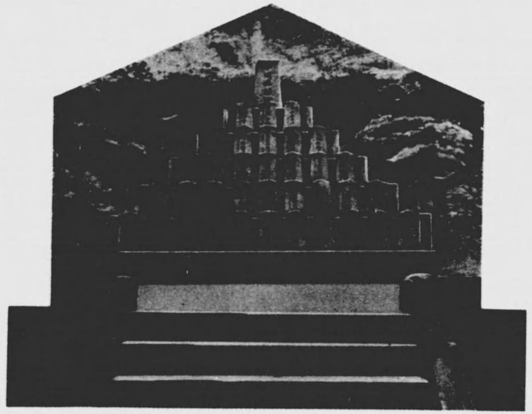
南洲先生墓



南洲神社（淨光明寺跡）

鹿兒島驛を去る事北西約八町贈正三位西郷南洲先生を祀る

無格社にして春秋二期大祭を執行す



薩摩義士碑

寶暦年間木曾川治水工事に關する責任を負ひ割腹したる平田靱負氏貝下の弔魂碑にして第七高等學校と縣立病院の中間城山公園の入口にあり

鹿兒島縣商工奬勵館

照國神社前大島居の東隣にあり縣内物産を網羅陳列し一般の縱覽に供し尙土産品の即賣を爲す

城山公園

城山は本市中央部にありて往時十年役の史蹟として有名なるのみならず全山樟杉等の老樹大木鬱蒼として茂り「パリパリノ木」「パクチノ木」「ショウベンノキ」「キンモクセイ」及壁帶性羊齒類等植物學上研究に値する名木珍樹多き天然の森林公園を成す

城山頂上休憩所

城山公園は又景勝の地位を占め頂上に登れは鹿兒島の全街眼下に展開され錦江灣を圍む薩隅の諸峯濃淡相連り櫻岳呼べは答へんとす眺望絶佳眞に世塵を拂ふに足る頂上の休憩所には今上皇后兩陛下の臨幸を始め奉り各宮殿下御登臨の記念御手植樹あり

鹿兒島驛より鴨池谷山行電車に據れは約二十分にして達す園内には動物園、植物園、庭球場、野球場、大食堂、浴場等の設けあり

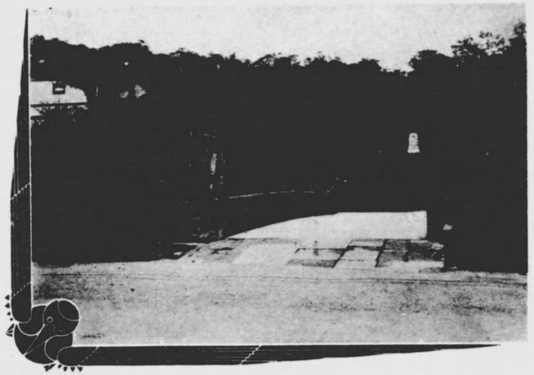
鴨池公園（其一）

鴨池公園（其二）

池には端艇を浮べ海岸は松青く砂白く櫻岳に對し風光明媚にして市民唯一の遊樂地なり

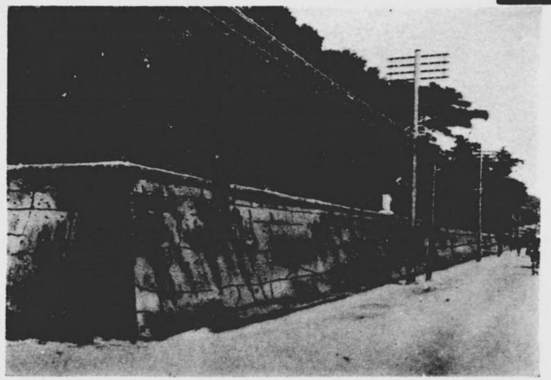
島津氏三百年來の居城鶴丸城の遺跡にして城壁を正面前の擬寶珠欄干の石橋今尚原形を留む庭内に明治五年の行在所記念碑あり

第七高等學校造士館



鹿兒島高等農林學校

市の南方上荒田町にあり明治四十一年の設立にして學校敷地十余町歩設備完備せり



私學校跡

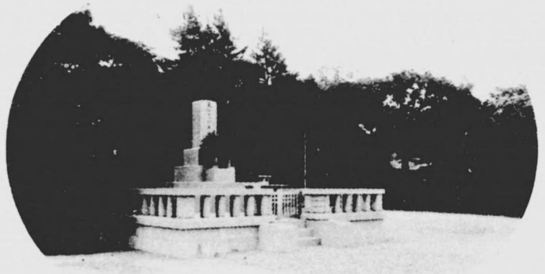
縣廳背後にして現今は縣立病院のある所なり西郷南洲翁三州の青年を集め教育せられし學校跡にして正面の石垣には十年戰役の彈痕今尙點々として殘存し當時を偲ばしむ

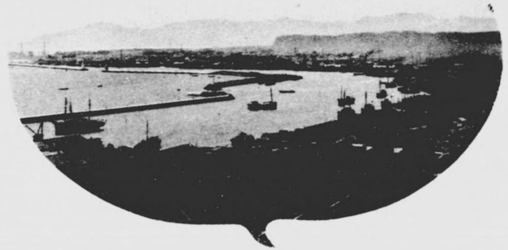
祇園の洲

鹿兒島驛より北方國道に沿ひ行く事三町薩英戰爭當時の砲臺の跡及明治丁丑の役官軍戰歿者の墓地あり錦江の水を距て、櫻島に相對し南方天保山の翠松海上に浮び恰も大の橋立を見るの感あり

東郷元帥墓地

鹿兒島驛の北方約三町多賀山にあり秀峰櫻島に對し波靜かなる鹿兒島灣を一眸の裡に收む



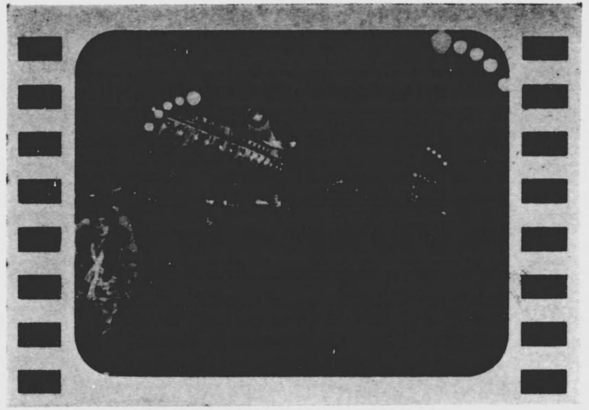


鹿兒島港

鹿兒島港は南九州の重要港にして夙に勝賑を極めしも其の規模狹小にして時勢の進運と通商貿易の發展に伴はざる憾ありしを以て大正十二年修築の工を起し爾來十一ヶ年の歲月と二百八十余萬圓の資を費し昭和九年八月工事完く成り舊觀を一變せり

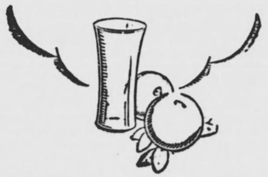
天保年間甲突川の浚渫に際し川砂にて築き上げたる堤立地にして舊藩時代練兵場として使用せられ文久三年薩英戰爭の際蒼戰敵艦を惱ましたる砲臺の跡なり甲突川の河口に沿ひ松樹相連り風光絶佳なり

天保山公園



夜の天文館

市の中央に位し活動寫眞館カフエー喫茶店等軒を並べ勝賑を極む本市隨一の歡樂境なり



沿革及土地

一、沿革 鹿兒島市は島津氏七十餘萬石の舊城下にして文治二年忠久公封ぜられてより二十九代忠義公に至るまで七百余年の治政宜しきを得て王政維新の魁をなすに至れり。明治四年廢藩置縣の制を布かれ尋て鹿兒島縣廳の設置あり始め區制を布き戸長役場を置きしが其の後戸長役場郡役所の廢合あり、明治二十二年四月一日始めて市政を實施せられ、鹿兒島市役所を山下町に設置す。當時全市五十個町にして戸數一萬七百三十戸人口六萬七千四百十三人なりしが其の後年々發展し同三十九年鹿兒島港改修に依る埋築地を洲崎町と命名して一町を增設し同四十四年九月鹿兒島郡伊敷村の一部草牟田と同西武田村武の一部とを市に編入し之を草牟田町及武町と稱へ大正九年十月伊敷村の一部大字高吉大字下伊敷を編入し尙大正十一年二月より南林寺墓地を整理して大正十三年七月新に南林寺町を增設し大正十四年六月二十日墓に編入の大字高吉同下伊敷を永吉町、原良町、玉里町と改稱し昭和九年二月十日天保山町を下荒田町の區域より分離新設し同年八月一日中郡宇村、西武田村及吉野村の三隣接村を編入して之等新編入區域に鴨池町、郡元町、宇宿町、田上町、西別府町、坂元町、吉野町、下田町、川上町及岡之原町の十個町を新設し、全市六十八個町、面積七八・二五平方粁、戸數三五、六四七、人口一八一、七三六人を算するに至れり。

二、位置及地勢 本市は鹿兒島灣に臨める南九州の要衝にして東經百三十度三十三分北緯三十一度三十五分の位置にありて東は鹿兒島灣を隔てゝ大隅の國に對し西は伊敷村、南は谷山町北は吉田村に接す。地勢は複雜にして市の中央市街地、南部鴨池町及郡元町の一部は概ね平坦なれども郡元町の大部、宇宿町、西別府町、坂元町、川上町、岡之原町等の

市の西部及北部區域並に市の北部海岸に沿へる一帶は高臺にして山地懸崖峭からず。而して之等山岳地に狹まれる市の北方中央部なる吉野町の廣大なる區域は土地高燥にして丘陵性の高台をなし絶好の農耕地なり。

本市は古來山紫水明風光の美を以て知られ氣候は溫和淸朗にして夏時は海風暑を和げ冬時積雪を見ること稀にして絶好の健康地なり。附近幾多の名勝史蹟に富むを以て近時史の國、景の國として世に宣傳せられ內外觀光客の訪れるもの甚だ多し。

三、面積 本市は東西一四・八四五粁（三里二八町六間）南北一五・二〇九粁（三里三一町二六間）面積七八・二五平方粁（六・〇七六方里）にして昭和九年隣接三村合併前の面積一六・七三平方粁に比し四・七倍となれり。

四、土地 本市に於ける昭和十年末公簿上の民有地面積は、有租地五、一二三・〇七町、免租地三四〇・〇七町、免租年期地二一・三七町、計五、四八四・五三町にして官有地は二三四・二二町なり。

五、公園 本市に於て公園名稱となれるものは總計一六個所、總面積一一三・三二六坪にして其の大多數は西郷南洲翁誕生地、大久保甲東先生誕生地、乃木夫人誕生地等の如く其の面積は狹小にして數畝乃至一〇〇畝にして主要公園と目せらるゝものは左の如し。

城山公園	四五・七六九坪
南林寺公園	四・〇六三
祇園の洲公園	五・五三〇
鴨池公園	五〇・一三五
天保山公園	一四・〇二四

氣象

六、氣溫 本市の溫度は概ね溫和にして、昭和十年中の平均溫度は攝氏一六・九度（以下攝氏を略す）にして最高は七月二十五日の三四・六度、最低は零下四・三度なり。本市の平均溫度を東京の平均溫度一四・〇度に比較するに二・九度高く大阪の平均溫度一五・〇より一・九度高し。

本市に於ける昭和十年の初霜は十月二十七日、初雪は十月十六日にして終霜は四月二日終雪は二月十三日なり。

七、風速 本市の昭和十年中の平均風速は每秒三・二米にして昭和九年中の平均速度三・一米と略同數なり。而して昭和十年中の最大風速は一七・三米（九月七日）にして昭和九年中の最大風速度一七・六米（九月八日）と大差なし。

人口

八、世帶及人口 昭和十年十月一日施行せられたる國勢調査の結果による鹿兒島市の世帶及人口は三五、六四七世帶、一八一、七三六人（男八八、〇八六人、女九三、六五〇人）にして鹿兒島縣の三三二、六三二世帶一、五九一、四六六人に比較する時は、世帶に於ては縣總數の一〇・七％人口は一一・四％を占む。而して一世帶當平均人口は五・一人弱なり。上記國勢調査人口を昭和五年國勢調査當時の人口一六六、三七〇人に比較する時は一五、三六六人の增加にして一年平均三、〇七三人の增加なり。

本市の人口は全國都市（內地のみ）中第一八位にして九州都市中にては第五位を示す。今日本內地中人口一五〇、〇〇〇人以上の都市を擧ぐれば次の如し。

東京市	五、八七五、六六七人
大阪市	二、九八九、八七四

名古屋市	一、〇八二、八一六
京都市	一、〇八〇、五九三
神戸市	九一二、一七九
横濱市	七〇四、二九〇
廣島市	三一〇、一一八
福岡市	二九一、一五八
呉市	二三一、三三三
仙台市	二一九、五四七
長崎市	二一一、七〇二
八幡市	二〇八、六二九
函館市	二〇七、四八〇
靜岡市	二〇〇、七三七
札幌市	一九六、五四一
熊本市	一八七、三八二
横須賀市	一八二、八七一
鹿兒島市	一八一、七三六
和歌山市	一七九、七三二
佐世保市	一七三、二八三
岡山市	一六六、一四五
金澤市	一六三、七三三
川崎市	一五四、七四八
小樽市	一五三、五八七

九、職業別戸數 本市總戸數三五、六四七中最も多きは商業八、一〇二戸（二二・七%）にして工業の七、〇五六戸（一九・八%）之に亞ぐ。公務自由業五、八五〇戸（一六・四%）農業四、四六七戸（一二・五%）無職業四、〇七六戸（一一・四%）其の他の有業者、交通業、水産業、家事使用人、鑛業の計六、〇九六戸（一七・〇%）にして本市は特に商業都市或は工業都市と稱し難し。

教育

一〇、市内各學校 本市に於ける高等專門學校は第七高等學校造士館鹿兒島高等農林學校、鹿兒島高等商業學校の三校にして中等學校は縣立師範學校（男子及女子各別に）二全中學校二（第一及第二）全商船學校全工業學校全盲啞學校市立商業學校縣立第一及第二高等女學校市立女子興業學校の外私立中學校一全高等女學校三全實業學校六各種學校一三あり。小學校は總計二〇（內尋常高等併置一〇、高等小學校一）にして昭和十一年三月一日現在就學兒童總數は二八、四七四人にして、一校平均一、四二四人なり。幼稚園は師範學校幼稚園一私立幼稚園一四ありて昭和十一年三月一日現在園兒數は一、二一七人なり。青年學校は七ありて昭和十一年三月一日現在生徒數三、八二九人なり。

一一、圖書館 本市には縣立圖書館一ありて昭和十年末現在備付書籍二二三、一〇七册にして全年中の閱覽人員一六〇、三〇五人、一日平均閱覽人員は四、九四七人なり。

社寺及兵事

一二、神社寺院及教會 昭和十年末現在市內の神社は別格官幣社照國神社、縣社松原神社、鹿兒島神社、鶴嶺神社の外鄕社八、村社一三無格社一一計三六あり。

教會はメソヂスト教會外九あり。

今神社及寺院の所在地等を表示すれば左の如し。

神社名	所在地	社格	神社名	所在地	社格
照國神社	山下町	別格官幣社	稲荷神社	稲荷町	郷社
松原神社	南林寺町	縣社	春日神社	春日町	〃
鹿兒島神社	草牟田町	〃	若宮神社	池之上町	〃
多賀神社	清水町	郷社	長田神社	長田町	〃
八坂神社	〃	〃	日枝神社	常盤町	〃
南方神社	〃	〃	船魂神社	新屋敷町	〃
鹽竈神社	鹽屋町	〃	建部神社	武町	〃
八幡神社	下荒田町	〃	八幡神社	田上町	〃
南洲神社	上龍尾町	無格社	吉滿神社	〃	〃
大物主神社	清水町	〃	諏訪神社	西別府町	〃
日枝神社	原良町	〃	鶴嶽神社	吉野町	縣社
郡元神社	郡元町	〃	平松神社	〃	〃
天御中主神社	宇宿町	〃	菅原神社	〃	郷社
日枝神社	鴨池町	〃	日枝神社	坂元町	〃
白山姫神社	吉野町	〃			

寺院	所在地	寺院	所在地
本派本願寺鹿兒島別院	東千石町	不斷光院	易居町
大谷派本願寺別院	新町	興正派鹿兒島別院	長田町
南洲寺	南林寺町	最大乘院	〃
淨光明寺	上龍尾町	日蓮宗敎王寺	松原町
曹洞宗大中寺	西千石町	常樂院	長田町

一三、兵事　昭和十年度鹿兒島市の壯丁總人員は一、四五四人にして受驗總員は一、〇〇六人なり而して其の体格檢査結果は次の如し。

總數	一、〇〇六人	割合
甲種	二三四	二三・三%
第一乙種	一二五	一二・四
第二乙種	二二八	二二・七
丙種	三五一	三四・九
丁種	六八	六・七
戊種	—	—

社會事業

一四、社會事業概要　本市は社會政策の施設として物價調節並に日用品の安價提供を目的としたる公設市場住宅緩和の爲の小住宅庶民金融機關として公益質舗失業者救濟の爲職業紹介所等を經營するの外濟生會鹿兒島診療所、鹿兒島市社會事業協會經營の實費診療所、縣市醫師會、私設各種社會事業團体及方面委員等と連絡協力し經濟保護醫療保護及失業者保護等に努力す。

一五、市營住宅　本市々營住宅は草牟田町・藥師町、西田町、上荒田町及南林寺町の五個所にありて昭和十年末總戸數一二九戸にして內二九戸は店舗付商店向きにして他は一ヶ月家賃八圓乃至十圓五十錢の小住宅なり。

一六、職業紹介　昭和十年度中の求職者は男一、三五五人、女九五八人就職者男三〇一人、女三八六人にして求職者百につき就職者は男二二人、女四〇人の割合にして前年度の割合男一八人、女三七人より稍良好となり居れり。

一七、救護狀況　本市に於て昭和十年度中生活扶助をなしたるものは四五二世帶延人員二七一、七〇一人金額に於て一九、六三六圓生業扶助をなしたるものは四世帶延人員四人金額二七圓なり醫療救護にありては一三五世帶延人員二三、一〇九人金額九、六六九圓にして助產は七世帶延人員七人金額四一圓、埋葬は二八世帶延人員二八人、金額一九六圓なり。

衛生

一八、上水道 本市の上水は水質良好にして湧水量概算毎秒〇・二二〇立方米、取水量〇・二一二立方米にして水源地は市内吉野町、下田町冷水町、伊敷村明ケ窪、配水池は市内坂元町にありて湧水を其儘配水池に送水市内に配付す。大正四年四月水道の創設工事に着手し大正十一年工事完成し其の後年々擴張工事を施し今日に至りたるが昭和十年度末までの總經費一、八二三、九六六圓にして昭和十年度末給水戸數一七、〇二七戸、一日給水總量二、七九二、六四七立方米なり。

警察

二二、警察機關 鹿兒島警察署は市の中央部泉町にありて昭和十年末現在市内派出所二二ありて警視一人、警部二人、警部補八人、巡査一六八人、計一七九人の職員を有す。此の一七九人を本市世帯及人口に對比すれば警官一人ニ付世帯一九八、人口一、〇〇九人の割合なり之れを昭和九年全國の平均數なる警官一人に付人口一、一三〇人に比すれば稍小なれども六大都市の東京の四九八人、大阪の六三八人、京都の七一〇人、名古屋の八九一人、神戸の五五一人、横濱の六八九人に比すれば警官一人に對する人口は遙かに大なり。而じて昭和十年中盜難に遇ひし家は二〇三一戸（内船一九）にして其の見積財産價額三三、三五五圓なり。

二三、消防及火災 昭和十年末現在本市の消防設備は蒸汽ポンプ四台ハンドポンプ九台、自動車ポンプ五台、水管自動車二台、水管車二八台ありて消防人員は二四三人なり。昭和十年中の火災度數は三三回にして二二回は直ちに消し止め一一回延燒せり。燒失戸數は六〇戸にして見積損害額は二九二、三四三圓なり。

生産物

二四、生産物總額 鹿兒島市昭和十年中の生産總額は一〇、一四四、一八〇圓にして内工産物最も多く一、〇八〇、五九圓にして總額の九〇・一%を占む。尚農産物畜産物其の他の産額を示せば次の如し。

生産物總額	一〇、一四四、一八〇圓
内工産物	一、〇八〇、五九圓
農産物	一、三八八、九六一（六・九%）
畜産物	三一四、一七七（一・六%）
水産物	二三五、七六二（一・一%）
林産物	六四、〇四七（〇・三%）

二五、工場 昭和十年末日現在の市内工場數（職工五人以上）は二三六、職工總數五、八四九人にして昭和十年中の生産額は一五、五六五、二五四圓に達す。今之れ等工場の種類別、生産額職工數別を示せば次の如し

工場種類	個所數	生産額	職工數 總數	職工數 男	職工數 女
總數	二三六	一五、五六五、二五四円	五、八四九	二、四七〇	三、三七九
窯業、土石加工業	一一	七二、六一八	一〇〇	九六	四
金屬工業	九	一三五、二〇三	八六	八四	二
機械器具製造業	一五	四六五、八七八	三七七	三七五	二
造船業、運搬用具製造業	六	一六〇、二六五	九〇	九〇	—
精巧工業	一	一五、〇〇〇	一三	一四	九
化學工業	一〇	六三、一二六	七九	六七	一二
紡織工業	四七	八、七三六、二五一	三、二二〇	三、〇八	二、八八二
被服身裝品製造業	二九	三四五、一四四	二二五	一八〇	五五
紙工業、印刷業	一九	一、二五七、七九六	五三七	四三四	一〇三

皮革、骨、羽毛品類製造業	二	四、二六六	五	五	一	一	九
木竹草蔓類に關する製造業	五一	一、二三七、四八〇	五五四	四九六	五八		
飲食料品製造業	三三	二、三四四、四二一	五二五	二七三	二五二		
ガス電氣水道業	一	一四六、八二六	九	一	九		
其他の工業	二	二、〇〇〇	九	一	九		

商業及金融

二六、會社 昭和十年末現在市内の會社數は二七七にして其の資本金及出資額は七三、〇五五、二四五圓にして株式會社九六、合資會社一一三、合名會社六八なり。

二七、中央卸賣市場 鹿兒島市中央卸賣市場は昭和十年十一月三日の開場にして取引品目は魚類・蔬菜類、果物類にして仝年中の取引金額(十一月、十二月の二ヶ月分)六一七、四四五圓にして一日平均一〇、六四五圓なり。

二八、公設市場 市設公設市場は大正十年二月の開設にして昭和十年中の指定店舗數三〇にして其の販賣額は一五四、四五二圓なり。

二九、銀行 昭和十年末現在市内銀行は本店七、支店三にして其の資本金總額は一九、八〇〇、〇〇〇圓に達す。

三〇、公益質舗 昭和十年度中の市設公益質舗の貸出高は八四、一七二圓受戻高七九、一二九圓、流質高一、九七七圓にして一口平均貸出金額は三・三六圓なり。而して利用者につき見るに總數一六、二九二人中最も多きは勞働者五、二六七人(三二・三%)にして小商人五、〇〇八人(三〇・七%)俸給生活者一、二三四人(七・六%)漁業者二九一人(一・八%)の順なり。

三一、質屋 昭和十年末現在市内私設質屋は總數一七にして貸出金額六七六、〇四九圓、受戻金額五四七、一五四圓、流質金額七一、二五七圓徴收五九七圓にして一口平均入質金額は三・八〇圓なり。

三二、郵便貯金及郵便爲替 昭和十年中の郵便貯金は預入口數四三七、〇七五、仝金額五、八九一、八四五圓、拂戻口數一八九、七〇五、仝金額五、九八八、六六三圓にして郵便爲替は振出口數一八四、六五八仝金額四、七九〇、八三五圓、拂渡口數三四二、一九三、仝金額七、六一五、九四〇圓なり。

交通

三三、道路 昭和十年末現在鹿兒島市の道路總延長は四三〇粁五二七(一〇八里二二町五一間)にして市道三八九粁八五六、國道一六粁六三九縣道二四粁〇三二なり。

三四、船舶 昭和十年中鹿兒島港出港船舶數は二九、二四一隻乘船客三二九、〇五八人にして入港船舶數は二九、二四五隻上陸客三二七、四二〇人なり。

三五、鐵道 昭和十年中鹿兒島驛及西鹿兒島驛に於ける乘車客數は一、一八一、三四〇人、降車客數は一、三二一、四二〇人にして各驛別に示せば次の如し。

	乘車客			降車客		
	總數	一日平均		總數	一日平均	
總數	一、一八一、三四〇	三、二三七		一、三二一、四二〇	三、六四四	
鹿兒島驛	五九〇、八四三	一、六一九		六二二、三七五	一、六一八	
西鹿兒島驛	五九〇、四九七	一、六一八		七九九、〇四五	一、九八六	

三六、電車及自動車 市營電車及自動車は市内交通機關として重要なる地位を占め、電車の營業粁數は二四粁五三〇、自動車仝上二二粁三九

六に達し、昭和十年中の乗客數を示せば次の如し。

昭和十年	乗客數	一日平均乗客數
電車	一一、二六二、六六八	三〇、七七二
自動車	三、〇五二、九三七	三、三四一

三七、諸車 昭和十一年三月末日現在市内の自動車自轉車其他の諸車數は次の如し。

總數	一五、七〇八
自轉車（自動）	一一八
自轉車（普通）	一三、五三〇
人力車	二六三
荷車（中車）	七一五
牛車	五
馬車（荷積用）	六九二

財政

三八、昭和十一年度豫算 鹿兒島市昭和十一年度豫算總額は二、五七二、〇九五圓にして歳入の主なるものは市税一、一三五、七一〇圓（四四・二%）使用料及手數料四九三、七八七圓（一九・二%）にして市債は三五三、〇〇〇（一三・七%）なり。歳出にありては教育費七三四、三五二圓（二八・六%）役所費五五〇、六六一圓（二一・四%）衛生費二五四、五〇八圓（九・九%）土木費二五〇、八五一圓（九・七%）其他三一二、五九九圓（一二・二%）なり。

三九、諸税 昭和十年度鹿兒島市國税調定額二、一八九、四二四圓、縣税一、一五三、七四二圓、市税一、一五六、八三二圓、總計四、四九九、九八八圓にして一世帯當一二六・二四圓、一人當二四・七六圓の割合となり居れり。

市政

四〇、議決機關及執行機關 本市の市會議員定數は四一名なり昭和十年末現在市職員は市長一名、助役二名、收入役一名、主事七名、視學一名、技師六名、市醫一名、書記八一名、書記補八〇名、技手二八名、技手補六名、雇四〇外二九名、總計二八三名あり。今歴代市長の就退任年月日を示せば次の如し。

順位	就任年月日	退職年月日	氏名
一代	明治 三、五、三一	明治 二四、三	上村行徴
二代	〃 二四、四、一三	〃 四〇、三、三〇	上村慶吉
三代	〃 四〇、八、一六	大正 二、二、二三	有川貞壽
四代	大正 三、四、四	〃 三、四、三〇	兒玉利實
五代	〃 三、七、二二	〃 一、八、一五	山本德次郎
六代	〃 三、四、一七	〃 一四、二、三	伊集院俊
七代	〃 一四、五、二三	〃 一五、九、二三	上野篤
八代	〃 一五、一〇、三〇	昭和 三、二、二四	白男川讓介
九代	昭和 四、六、一七	〃 七、一〇、二七	樺山可也
一〇代	〃 八、六、一三	〃 一一、一、一七	岩元禧
一一代	〃 一一、七、一二	（現市長）	伊地知四郎

四一、分課組織 本市の分課組織は左の一一課、二七係なり。

一、文書課　秘書係、文書係、統計係
一、庶務課　庶務係、議事係、戸籍係、兵事係
一、學務課
一、社會課

一、稅務課　課稅係、徵稅係、徵收係
一、勤業課　商工係、農林係、觀光係
一、土木課　事務係、土木係、營繕係、土地係、公園係
一、衛生課　衛生係、清掃係
一、會計課　會計係、用度係
一、水道課　事務係、工務係
一、交通課　總務係、工務係、運輸係

四二、諸官衙及諸學校　昭和十一年四月現在市內諸官衙及諸學校を列記すれば次の如し。

名稱	位置
鹿兒島縣廳	山下町
鹿兒島市役所	全
鹿兒島市公會堂	全
鹿兒島郵便局	全
鹿兒島無線電信局	全
吉野送信局	吉野町
鹿兒島地方裁判所	山下町
鹿兒島地方裁判所檢事局	全
鹿兒島刑務所	永吉町
鹿兒島警察署	泉町
步兵第三十六旅團司令部	伊敷村
步兵第四十五聯隊	全
鹿兒島衛戍病院	全
鹿兒島聯隊區司令部	山下町
鹿兒島憲兵分隊	全
日本赤十字社鹿兒島支部	全
海濱病院	郡元町
日本愛國婦人會鹿兒島支部	山下町
日本武德會鹿兒島支部	全
鹿兒島縣立圖書館	全
鹿兒島縣商工奬勵館	全
度量衡檢査所	全
蠶業取締所	全
水產試驗所	全
衞生試驗所	全
工業試驗所	原良町
巡査教習所	山下町
鹿兒島水上巡査派出所	住吉町
鹿兒島縣立病院	山下町
鹿兒島縣穀物移出檢査所	住吉町
港務所	汐見町
測候所	上荒田町
鹿兒島營林署	春日町
南洲翁記念館	上龍尾町
尙古集成館	吉野町
濟生會鹿兒島診療所	南林寺町
鹿兒島實費診療所	全
鹿兒島市職業紹介所	山下町
鹿兒島市公設市場	全
鹿兒島市公益質舖	南林寺町
鹿兒島地方專賣局	榮町
全西鹿兒島分工場	上荒田町
鹿兒島稅關支署	汐見町
鹿兒島稅務署	易居町
鹿兒島農事試驗場	鴨池町
鹿兒島檢疫所	生產町

鹿兒島驛	濱町
鹿兒島驛	西千石町
鹿兒島保線事務所	濱町
鹿兒島保線事務所	上荒田町
鹿兒島保線事務所	山之口町
鹿兒島保線事務所	下荒田町
鹿兒島保線事務所	上之園町
鹿兒島保線事務所	武町
鹿兒島保線事務所	山下町
鹿兒島保線事務所	草牟田町
鹿兒島保線事務所	清水町
鹿兒島保線事務所	長田町
鹿兒島保線事務所	山下町
鹿兒島保線事務所	加治屋町
鹿兒島保線事務所	山下町
鹿兒島保線事務所	下荒田町
鹿兒島保線事務所	上之園町
鹿兒島保線事務所	武町
鹿兒島保線事務所	山下町
鹿兒島保線事務所	草牟田町
鹿兒島保線事務所	清水町

運輸事務所

門司鐵道局武鐵工場

鹿兒島商工會議所

鹿兒島縣教育會館

熊本遞信管理局鹿島電信電話技術官駐在所

簡易保險鹿兒島健康相談所

鹿兒島土木出張所

鹿兒島縣財務出張所

第七高等學校造士館

鹿兒島高等農林學校

鹿兒島高等商業學校

鹿兒島縣立第一鹿兒島中學校

第二鹿兒島中學校

鹿兒島縣師範學校

鹿兒島縣立商船學校

鹿兒島縣立工業學校

盲啞學校

鹿兒島縣女子師範學校

鹿兒島縣立第一高等女學校

第二高等女學校

鹿兒島商業學校

鹿兒島市立女子興業學校

鹿兒島縣師範學校附屬小學校

鹿兒島縣女子師範學校附屬小學校

牟田尋常小學校

全	南林寺町
全	西千石町
全	長田町
全	山下町
全	上荒田町
全	長田町
全	薬師町
全	上之園町
全	武町
全	下荒田町
全	草牟田町
全	全
全	山下町
全	上之園町
全	下荒田町
全	山下町
全	草牟田町
全	清水町

山下尋常小學校	西千石町
松原尋常小學校	山之口町
八幡尋常小學校	下荒田町
中洲尋常小學校	上之園町
洲崎尋常小學校	鹽屋町
鹿兒島尋常高等小學校（昭和十一年六月二十二日ヨリ高等科併設）	山下町
荒田尋常高等小學校（仝上）	高麗町
西田尋常高等小學校	藥師町
大龍尋常高等小學校	上龍尾町
天保山高等小學校	天保山町
中郡尋常高等小學校	郡元町
宇宿尋常高等小學校	宇宿町
田上尋常高等小學校	田上町
吉野尋常高等小學校	吉野町
川上尋常高等小學校	川上町
龍水尋常高等小學校	吉野町
天保山商工青年學校	天保山町
鹿兒島青年學校	山下町
荒田青年學校	高麗町
西田青年學校	藥師町
松原青年學校	山之口町
紫原農藝青年學校	郡元町
吉野園藝青年學校	吉野町
鹿兒島中學校	原良町
全 實業學校	藥師町
全 高等實業學校	武町
三州商業學校	全
鹿兒島法學院	山下町
全 實科中等學校	高麗町

鹿兒島綜合中等學校	高麗町	
鎭西高等簿記學校	武町	
鹿兒島鉞灸學校	全	
鶴嶺鉞灸學校	南林寺町	
鹿兒島鐵道學校	高麗町	
全 高等豫備校	上荒田町	
全 高等簿記學校	山下町	
全 高等拓植學校	郡元町	
鶴嶺高等女學校	清水町	
全 女學校	全	
鹿兒島高等女學校	藥師町	
全 高等家政女學校	全	
全 和洋裁縫女學校	全	
全 女子商業學校	全	
全 高等實踐女學校	高麗町	
全 女子實踐商業學校	全	
全 產婆看護婦學校	武町	
聖名高等女學校	鴨池町	

四三、新聞社 本市內には左の新聞社及支局あり。

社名	所在地	創立年月
鹿兒島新聞社	山下町	明治十五年十一月
鹿兒島朝日新聞社	易居町	全 二二年七月
九州日々新聞社	全	全 四二年九月
大阪朝日新聞通信部	平之町	大正九年十一月
大阪毎日新聞鹿兒島支局	泉町	全 十一年九月
福岡日々新聞支局	山下町	全 十三年十一月
鹿兒島日々新聞社	樋之口町	昭和六年九月

334
484

昭和十一年十一月一日印刷
昭和十一年十一月十日發行

發行所　鹿兒島市役所

鹿兒島市東千石町九三
印刷人　瀬脇仲市

鹿兒島市東千石町九三
印刷所　鹿兒島印刷合資會社
電話番號九二四番
振替口座本四七九〇番

鹿兒島市役所